



志村学園

爽やかな秋に

校長 並木 信治

夏休み明けから早ひと月、朝晩はすっかり秋めいて、日中の風も爽やかに吹きわたっています。9月後半は三連休が二度続きましたが、それぞれ別の台風の影響を受けることとなり、御予定の変更を余儀なくされた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。幸い、本校の教育活動には影響は生じず、安堵いたしました。

さて、本日より後期の授業が始まります。後期には、様々な学校行事が予定されています。宿泊を伴う1年生の移動教室、2年生の修学旅行は、感染症対策のため行先や内容を精選し、3年ぶりの実施となります。これらに先駆け、9月16日（金）に1年生の宿泊防災訓練を同じく3年ぶりに実施しました。本校での宿泊指導を経験している教員も減少している中、感染症対策に細心の注意を払いながらの実施となりましたが、1年生の生徒の皆さんの訓練に向かう態度は予想以上に素晴らしく、自ら率先して行動したり、仲間と協力し合ったりする姿が随所で見られました。さすが志村の生徒、と誇らしく思います。事前事後のPCR検査への御協力等、ありがとうございました。

「持続可能な教育活動」の実現を目指し、こうした活動実績を踏まえつつ、予定されている各種行事を丁寧に実施していきたいと考えます。各御家庭には引き続き様々御理解と御協力をお願いすることとなりますが、なにとぞよろしくお願いいたします。

2年生の皆さんは、自身の所属するコースが決まり、心機一転のスタートとなります。また、3年生の皆さんは、卒業を半年後に控え、いよいよ就労に向けた動きが本格化していきます。新型コロナウイルスについてはまだまだ予断を許さず、基本的な感染症対策が欠かせない状況に変わりはありませんが、教育活動のより一層の充実を目指し、後期も教職員一同尽力してまいります。今後とも、皆様の御理解、御協力をよろしくお願いいたします。



前期から、後期へ

副校長 阿出川千賀子

コロナ禍以降、本校就業技術科の終業式・始業式は、オンラインや校内放送を活用しながら行ってきました。この度の終業式・始業式は、健康観察、ソーシャルディスタンス、換気、マスク等の基本的感染症対策を徹底し、3年ぶりに第一体育館で1～3学年が集合して実施しました。前期から後期への折り返しを、厳粛で清新な雰囲気の中で感じ、後期の学校生活への決意を新たにすることができました。短時間ではありますが、同じ場所先輩たちの様子、後輩たちの様子を見たり感じたりすることにより、これからの目標を確認すること、自覚を高めることが期待できると改めて感じました。

さあ、後期も「継続は力なり！」一つ一つの学びを続けていきましょう。

【お知らせ】 9月23日（金・祝）深夜にNHKのEテレで放映された「青春舞台2022」という番組の中で、志村学園ミュージカル部の様子が紹介されました。番組開始から54分ほど経過した頃の約10秒間です。再放送は、11月5日（土）午後2時～午後4時の予定です。

一泊二日宿泊防災訓練

生活指導主任 朝利 啓子

令和4年9月16日(金)から17日(土)、高等部就業技術科1年生と肢体不自由教育部門高等部3年生が、本校にて一泊二日宿泊防災訓練を行いました。

今年度は、あらゆる場面において感染症拡大防止対策を講じての実施となりました。手洗い、換気、消毒などの基本的対策を行ったうえで、実施前後にPCR検査を実施し、訓練体験グループを小グループとしました。また、食事場所と就寝場所を分け、就寝場所では、テープで区分けを行い、パーソナルスペースとソーシャルディスタンスを確保しました。様々な訓練を通じて、「自助」、「共助」の大切さについても学習を深める機会となりました。以下に、訓練の一部を御紹介します。

物資運搬訓練：災害備蓄食料を互いに協力して運搬し、投光器が作動する様子を見学しました。



避難所での過ごし方：発災時の初期対応や避難所での生活の中で気を付けることについて学習しました。



災害備蓄品利用訓練：災害備蓄食料の調理の仕方を知り、夕食・朝食で実際に食しました。



就寝場所設営：テープで区分けし、パーソナルスペースとソーシャルディスタンスを確保しました。



スマート・スクール端末について

教育情報部 担当主幹 橋爪 淳

東京都教育委員会では、令和4年度入学生から、全校に無線LANを整備し、教育活動場面において、生徒所有の一人1台端末を活用した学びを始めました。

就業技術科では、校内使用ルールや御家庭でのスマート・スクール端末活用ルールの策定をお願いして学習活動の充実に努めています。デジタル社会を生きていく生徒たちにとって今やPC端末は、マストアイテムとなってきています。

生徒同士の主体的な学びや対話的な学びにつながるよう、一人1台端末の活用を図っていきます。

志村学園では、デジタルだけに頼ることなく、今までどおりアナログの良さも大事にして学習場面等により、どちらの良さも適切に組み合わせて生かしていきます。

